平成26年度

渋谷区立松濤美術館年報

ANNUAL REPORT : THE SHOTO MUSEUM OF ART

第18号

目　次

Ⅰ　施設概要……003

Ⅱ　展観……005

　　平成26年度……006

Ⅲ　出版……027

Ⅳ　教育普及……029

　1. 講演会……029

　2. 美術教室……029

　3. コンサート……030

　4. 台湾映画会……030

　5. ギャラリートーク……031

　6. 美術館見学会＆ワークショップ……031

　7. 展覧会関連イベント……032

　8. 建築ツアー……032

Ⅴ　入館状況……033

Ⅵ　日誌抄……033

Ⅶ　組織……034

Ⅷ　利用案内……035

Ⅰ　施設概要

建物概要

位　　置	東京都渋谷区松濤二丁目14番14号	
建物構造	鉄筋コンクリート造	
	地下2階地上2階建	
敷地面積		1,034.57 m^2
建築面積		618.40 m^2
延床面積		2,027.18 m^2
階層別面積	塔屋	29.48 m^2
	2階	461.20 m^2
	1階	305.50 m^2
	地下1階	623.95 m^2
	地下2階	607.05 m^2
建築着工	昭和53（1978）年12月21日	
竣　　工	昭和55（1980）年　5月　8日	
建築工事	株式会社 竹中工務店東京支店	
設　　計	白井晟一研究所	
開　　館	昭和56（1981）年10月　1日	

各室面積

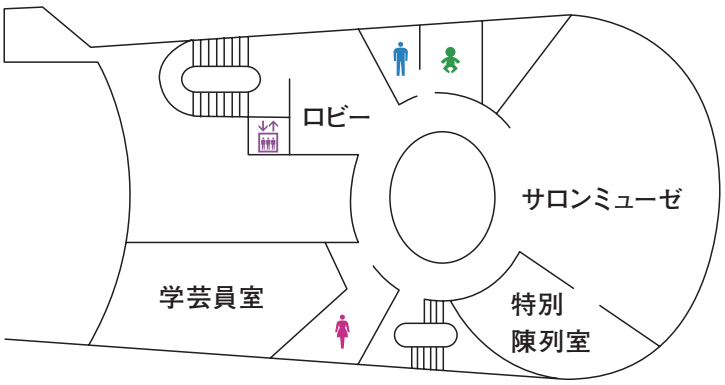
〔2階〕	**特別陳列室**	30.00 m^2
	サロンミューゼ	148.00 m^2
	館長室	41.00 m^2
	学芸員室	43.50 m^2
〔1階〕	**ロッカー室**	11.50 m^2
	ギャラリー	35.00 m^2
	事務室	58.00 m^2
	ロビー	64.50 m^2
〔地下1階〕	**陳列室**	203.00 m^2
	荷解室	15.50 m^2
	格納室	28.50 m^2
	収蔵庫	78.50 m^2
	機械室	34.50 m^2
	倉庫	10.00 m^2
〔地下2階〕	**ホール**	121.00 m^2
	映写室	6.50 m^2
	第一制作室	37.00 m^2
	第二制作室	34.50 m^2
	講師控室	18.50 m^2
	機械室	94.00 m^2

平面図

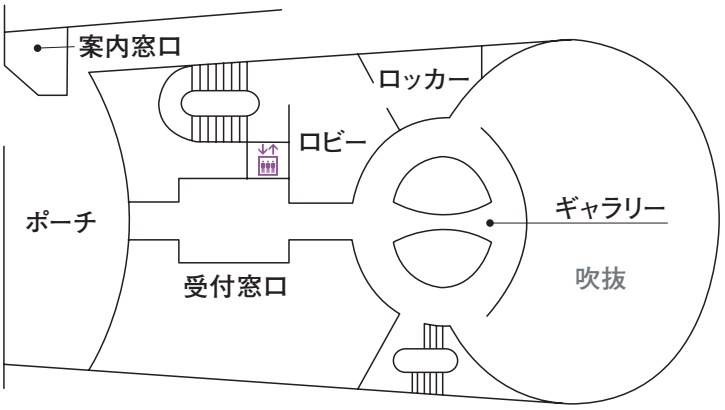
凡例

男子トイレ　女子トイレ　多目的トイレ　エレベータ　階段

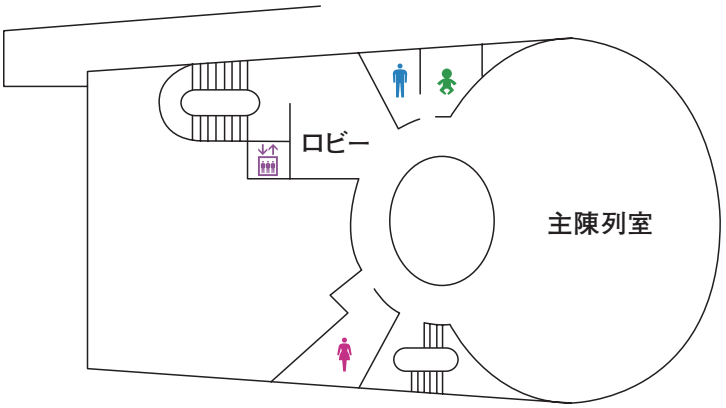
2 階



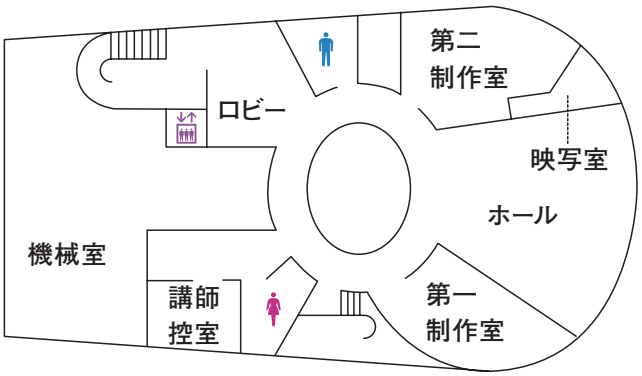
1 階



地下 1 階



地下 2 階



Ⅱ　展観

平成26年度

リニューアル記念特別展「ねこ・猫・ネコ」……006
特別展「藤井達吉の全貌　野に咲く工芸／宙を見る絵画」……009
特別展「いま、台湾　台灣美術院の作家たち」……013
リニューアル記念特別展 「御法に守られし　醍醐寺」……016
特別展「天神万華鏡　～常盤山文庫所蔵　天神コレクションより～」……018
2015　松濤美術館公募展……022
サロン展「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」……023
第33回渋谷区小中学生絵画展……026
　併催　特別支援学級連合展覧会

リニューアル記念特別展
ねこ・猫・ネコ

会期=平成26（2014）年4月5日（土）～5月18日（日）
会場=地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ、特別陳列室
主催=渋谷区立松濤美術館　読売新聞社

地球上には130万種以上の動物がいるといわれる。そうした中で、古今東西、我々の身近にいて、親しまれている動物が猫と犬であろう。

猫が家畜となったのは、人間の生活が狩猟生活から農耕生活に変わってからのこととされ、今日の家猫の祖先は、古代エジプトにおいてリビア山猫を飼いならしたものと考えられている。その目的は、蓄えた穀物を鼠の害から守るためであり、奈良時代に、仏典を輸入する際に、鼠の害から守るために船に乗せてきたのが日本の猫の起源いわれる。

猫は人間とともに生活しながらも、人間の愛情を求めることはあっても犬のように人間に忠節を尽くすことはありません。従順でありながら気まぐれ、時に野生の性質を丸出しにしたりもします。時に予想を超えた思いがけないふるまいをみせたりする猫、それが猫の魅力ともなっているのでしょう。文学においては、夏目漱石「吾輩は猫である」や谷崎潤一郎の「猫と庄造とふたりの女」などで猫が主要な役割を果たしている。今日では、子供たちの間では、ドラえもんやキティが不動の人気をえている。美術の主題の中にも、猫は取り上げられてきた。古くは鳥獣戯画の中にも猫が描かれている。江戸期の美人画にはしばしば猫が登場し、長崎派の花鳥画では猫が大きな意味を持っている。近代以後では、藤田嗣治・朝倉文夫など猫を愛してやまない画家や彫刻家たちがいる。本展では、美術作品を通して、猫と人との営みを顧みた。当館設立以来最高の入館者数をかぞえ、また、館内に来館者に好きな猫の写真をお持ちいただき飾ったところ１万匹近い猫の写真が集った。猫の人気に驚いた次第である。

出品目録

番号	作品名	作者	制作年代	材質技法	員数	所蔵者	陳列期間
序章　猫の誕生							
序-1	聖猫		エジプト末期王朝時代	ブロンズ	1体	松岡美術館	全期
序-2	聖猫頭部		エジプト末期王朝時代	ブロンズ	1体	松岡美術館	全期
	第一章　孤高の猫						
1-1	神猫図	山口宗季(1672-1743)	1725(享保10)年	紙本着彩	1幅	那覇市歴史博物館	全期
1-2	猫図	月僊(1741-1809)	1791(寛政3)年	紙本着彩	1幅	三重県立美術館	後期
1-3	月下神猫図	仲宗根真補(1843-?)	1899(明治32)年	紙本着彩	1幅	一般財団法人 沖縄美ら島財団	全期
1-4	花と猫	黒田清輝(1866-1924)	1906(明治39)年	油彩・キャンバス	1面	愛知県美術館	全期
1-5	あかざと黒猫	夏目漱石(1867-1916)	1914(大正3)年	紙本墨画	1幅	神奈川近代文学館	後期
1-6	猫	前田青邨(1885-1977)	1949(昭和24)年	紙本着彩	1幅	滋賀県立近代美術館	前期
1-7	猫	石井鶴三(1887-1973)	1938(昭和13)年	ブロンズ	1体	三重県立美術館	全期
1-8	シルバータビー	奥村土牛(1889-1990)	1966(昭和41)年	紙本金地着彩	1面	滋賀県立近代美術館	全期
1-9	猫A	橋本平八(1897-1935)	1922(大正11)年	楠材	1体	三重県立美術館	全期
1-10	猫	炭谷義雄(1897-1934)	1923(大正12)年	絹本着彩	1面	星野画廊	全期
1-11	月と猫	堀文子(1918-)	1950年代	紙本着彩	1面	個人蔵	全期
第二章　猫のいる情景							
2-1	春日権現験記絵(模本)　第6巻	原本:高階隆兼 永井幾麻模	1925～1935 (大正14～昭和10)年	紙本着彩	20巻の内	東京国立博物館	全期
2-2	○職人尽絵(刀師)	作者不詳	江戸時代	紙本着彩	6面の内	サントリー美術館	後期
2-3	正月飾りに猫図	藤原信寿	江戸時代	紙本着彩	1幅	個人蔵	前期
2-4	黒楽銀彩手焙	仁阿弥道八(1783-1855)	江戸時代	陶器	1基	遠山記念館	全期
2-5	木蔭	千草掃雲(1873-1944)	1922(大正11)年	絹本着彩	1幅	京都国立近代美術館	全期
2-6	無花果	結城素明(1875-1957)	1907(明治40)年	絹本着彩	1幅	東京藝術大学	後期
2-7	水圏戯	矢澤弦月(1886-1952)	1950(昭和25)年	紙本着彩	1面	東京藝術大学	前期
2-8	春	堂本印象(1891-1975)	1927(昭和2)年	絹本着彩	2曲1隻	京都府立堂本印象美術館	全期
2-9	雪に埋もれつつ正月はゆく	酒井三良(1897-1969)	1919(大正8)年	絹本着彩	2曲1隻	福島県立美術館	全期
2-10	三人の娘	猪熊弦一郎(1902-1993)	1954(昭和29)年	油彩・キャンバス	1面	横須賀美術館	全期
2-11	街角の夕	田代正子(1913-1995)	1949(昭和24)年	紙本着彩	1面	京都市美術館	全期
第三章　眠る猫							
3-1	繍毬花下睡猫図	与謝蕪村(1716-1784)	江戸時代	紙本墨画	1幅	個人蔵	全期
3-2	睡猫図	原在正(1777-1810)	江戸時代	絹本着彩	1幅	大阪市立美術館	全期
3-3	絵手本習作	河鍋暁女・伝 河鍋暁斎(1831-89)	明治時代	紙本着彩	1巻	摘水軒記念文化振興財団	全期
3-4	猫児(眠)	西山翠嶂(1879-1958)	制作年不詳	絹本着彩	1幅	三重県立美術館	全期
3-5	居眠る猫	朝倉文夫(1883-1964)	1914(大正3)年	ブロンズ	1体	朝倉彫塑館	全期
3-6	仔猫の群	朝倉文夫(1883-1964)	1927(昭和2)年	ブロンズ	1組	朝倉彫塑館	全期
3-7	親子猫	朝倉文夫(1883-1964)	1935(昭和10)年	ブロンズ	1体	朝倉彫塑館	全期
3-8	眠る猫(「猫十態」のうち)	藤田嗣治(1886-1968)	昭和時代	紙・エッチング	1枚	和泉市久保惣記念美術館	前期
3-9	母子	堂本印象(1891-1975)	1929(昭和4)年	絹本着彩	1幅	松岡美術館	後期
3-10	寝る子	寺井力三郎(1930-)	1967(昭和42)年	油彩・キャンバス	1枚	埼玉県立近代美術館	全期
3-11	エゴの木の上で(イワン)	合田佐和子(1940-)	1999(平成11)年	油彩・キャンバス	1枚	個人蔵	全期
第四章　猫と蝶							
4-1	猫と蝶図	司馬江漢(1747-1818)	江戸時代	絹本着彩	1幅	府中市美術館	前期
4-2	百合に猫図	増山雪斎(1754-1819)	江戸時代	絹本着彩	1幅	三重県立美術館	後期
4-3	草花に猫蛙図	栗本翠庵(1784-1860)	江戸時代	絹本着彩	1幅	個人蔵	全期
4-4	君子長命図	椿椿山(1801-1854)	1837(天保8)年	絹本着彩	1幅	板橋区立美術館	後期
4-5	猫と花鳥図	作者不詳	江戸時代	絹本着彩	1幅	摘水軒記念文化振興財団	後期
4-6	微風	富取風堂(1892-1983)	大正時代	紙本着彩	1幅	川越市立美術館	全期
4-7	花かげ	松尾敏男(1926-)	1984(昭和59)年	紙本着彩	1面	京セラ株式会社	全期
第五章　猫と鼠							
5-1	猫鼠を覗う図	柴田是眞(1807-1891)	1884(明治17)年	絹本着彩	1幅	板橋区立美術館	前期
5-2	猫図	富岡鉄斎(1837-1924)	1917(大正6)年	紙本墨画	1幅	個人蔵	後期
5-3	猫と提灯	小林清親(1847-1915)	1877(明治10)年	木版	1枚	千葉市美術館	前期

番号	作品名	作者	制作年代	材質技法	員数	所蔵者	陳列期間
5-4	猫と提灯	原画:小林清親(1847-1915)		木版	1枚	千葉市美術館	後期
5-5	酔興	竹内栖鳳(1864-1942)	1924(大正13)年	紙本着彩	1幅	京都市美術館	全期
5-6	よく獲たり	朝倉文夫(1883-1964)	1946(昭和21)年	ブロンズ	1体	朝倉彫塑館	全期
※○重要美術品　◎　重要文化財							
※全期は4月5日(土)～5月18日(日)、前期は4月5日(土)～4月28日(月)、後期は4月29日(火・祝)～5月18日(日)							
第六章　猫と美人							
6-1	佐久間將監像	原本:狩野探幽			1枚		全期
		菅原虎三模	江戸時代	紙本淡彩		一般財団法人千秋文庫	
6-2	佐久間將監像(「狩野家縮図　漢人物」)	狩野常信(1636-1713)	江戸時代	紙本墨画淡彩	17巻の内巻2	東京藝術大学	全期
6-3	女三の宮図	小池曲江(1758-1847)	江戸時代	絹本着彩	1幅	仙台市博物館	後期
6-4	少女愛猫図	石川孟高(1762後-?)	江戸時代	絹本墨画	1幅	大和文華館	前期
6-5	美人に猫図	戀川春政(?-1811-?)	江戸時代	紙本着彩	1幅	東京国立博物館	後期
6-6	湯上り美人と猫図	勝川春英(1762-1819)	江戸時代	紙本着彩	1幅	東京国立博物館	前期
6-7	美人に猫図	百川子興(生没年不詳)	江戸時代	紙本着彩	1幅	東京国立博物館	前期
6-8	太夫愛猫図	桃源斎栄舟(生没年不詳)	江戸時代	絹本着彩	1幅	東京国立博物館	後期
6-9	見立女三宮図	作者不詳	江戸時代	絹本着彩	1幅	京都府立総合資料館	前期
6-10	女三の宮	川端玉章(1842-1913)	明治時代	絹本着彩	1幅	東京藝術大学	全期
6-11	裸婦	田中保(1886-1941)	1924(大正13)年	油彩・キャンバス	1面	埼玉県立近代美術館	全期
6-12	漱石先生	岡本一平(1886-1948)	制作年不詳	紙本着彩	1枚	東北大学附属図書館	全期
6-13	夫人と猫(足利銘仙ポスター原画)	長谷川昇(1886-1973)	1934(昭和9)年	油彩・キャンバス	1面	足利市立美術館	全期
6-14	裸婦	小寺健吉(1887-1977)	1950(昭和25)年	油彩・キャンバス	1面	岐阜県美術館	全期
6-15	婦人像	中川紀元(1892-1972)	1920(大正9)年	油彩・キャンバス	1面	京都国立近代美術館	全期
6-16	祖母と子猫	木村荘八(1893-1958)	1912(明治45)年	油彩・キャンバス	1面	東京都現代美術館	全期
6-17	猫	中村貞以(1900-1982)	1948(昭和23)年	絹本着彩	2曲1隻の内	東京都現代美術館	全期
6-18	少年像	佐藤敬(1906-1978)	昭和時代	油彩・キャンバス	1面	神奈川県立近代美術館	全期
6-19	白の憂羅	牧野邦夫(1925-1986)	1975(昭和50)年	油彩・キャンバス	1面	個人蔵	全期
第七章　中国・朝鮮の猫							
7-1	◎麝香図(唐絵手鑑『筆耕園』の中)	伝 毛松	南宋	絹本着彩	1帖の内	東京国立博物館	前期
7-2	◎蜀葵遊猫図	伝 毛益	南宋	絹本着彩	1幅	大和文華館	後期
7-3	老圃秋容図	沈南蘋(1682-1760-?)	1731(雍正9)年	絹本着彩	1幅	静嘉堂文庫美術館	後期
7-4	燕掠飛花図	沈南蘋(1682-1760-?)	制作年不詳	絹本着彩	1幅	黒川古文化研究所	前期
7-5	耄耋延年図	朱儁(1826-1900)	1894(光緒20)年	紙本墨画淡彩	1幅	東京国立博物館	後期
		倪田(1855-1919)					
7-6	猫魚図	銭慧安(1833-1911)	1909(宣統元)年	紙本墨画淡彩	1幅	東京国立博物館	全期
7-7	花鳥狸奴図	胡鉄梅(1848-1899)	制作年不詳	紙本墨画淡彩	1幅	個人蔵	前期
7-8	君何懶也	斉白石(1863-1957)	1946(民国35)年	紙本着彩	1幅	台北・鴻禧美術館	全期
7-9	斑猫	劉奎齢(1885-1967)	1935(民国24)年	紙本墨画	1幅	個人蔵	全期
7-10	驚艶図	徐悲鴻(1895-1953)	1935(民国24)年	紙本墨画淡彩	1幅	京都国立博物館	前期
7-11	猫蜂図	王雪濤(1903-1982)	制作年不詳	紙本墨画淡彩	1幅	個人蔵	後期
		曹克家(1906-1979)					
7-12	年画	作者不詳	1980年代	木版・紙	1枚	個人蔵	全期
7-13	年画「老鼠娶親」	作者不詳	1980年代	木版・紙	1枚	個人蔵	全期
7-14	年画「老鼠取親」	作者不詳	1980年代	木版・紙	1枚	個人蔵	全期
7-15	猫図	卞相璧(1730-?)	李朝後期	紙本着彩	1幅の内2枚	東京国立博物館	前期
7-16	飛雀猫図	卞相璧(1730-?)	李朝後期	紙本着彩	1幅	東京国立博物館	後期
7-17	花猫蝶図	南啓宇(1811-1888)	李朝後期	絹本着彩	1幅	東京国立博物館	前期
7-18	猫図	張承業	李朝後期	紙本淡彩	1幅	東京国立博物館	後期
特別出品							
特-1	猫ひと時	中島千波(1945-)	2014(平成26)年	紙本着彩	1面	個人蔵	全期
特-2	女と猫	畠中光享(1947-)	2014(平成26)年	紙本着彩	1面	個人蔵	全期
※○重要美術品　◎　重要文化財							
※全期は4月5日(土)～5月18日(日)、前期は4月5日(土)～4月28日(月)、後期は4月29日(火・祝)～5月18日(日)							

特別展

藤井達吉の全貌　野に咲く工芸／宙を見る絵画

会期=平成26（2014）年6月10日（火）～7月27日（日）

会場=地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ、特別陳列室

主催=渋谷区立松濤美術館

特別協力=碧南市藤井達吉現代美術館

企画・運営協力=株式会社 キュレイターズ

近代工芸の先駆者である藤井達吉（1881-1964）は、明治期の輸出を目的とした殖産興業的な工芸から、新思潮の芸術意識をもった工芸をめざした。いわば、過去の何ものにもとらわれない、「自由な工芸」である。その根幹となるのは「自然を観る」という姿勢であり、工芸や絵画など場面は変わろうとも、それを徹頭徹尾貫いた芸術家である。アール・ヌーヴォーあるいは琳派的なものから出発し、自然の形態を取り入れた図案は、素朴ながら新時代の美意識を背景とした魅力あるものだった。

その活動は驚くほど広範囲で、七宝、刺繍、染織、壁掛、金工、木工、陶芸、手漉き和紙など工芸全般にわたり、さらには、日本画、墨画、油彩画、木版画、装幀などの制作も多彩だ。藤井はあらゆる技術と材料を猟蒐しタブーを侵して混交し、そのための発想と制作は一人の工芸家の手に統合されなければならないと考えていた。じつに素朴に、じつに愚直に、工芸と絵画とを融合することで実現しようとしたし、その一方で、文展での工芸部門設立を提言し、啓蒙に関わる執筆を繰り返していた。大正・昭和を通じて近代工芸における芸術性の自律を実現するために尽くした功績はきわめて大きいと言える。

本展に協力いただいた出身地にある碧南市藤井達吉現代美術館は、埋もれていた作品・資料の発見を積極的におこない、藤井芸術の研究・顕彰に大いに尽くしてきた拠点でもある。藤井のことは長い間、忘れられた存在だったが、近年のそうした活動やしばしば開かれる藤井達吉の回顧展によって、作家の存在と作品の特異さがクローズアップされるにつれ、その芸術が理解されるようになった。藤井芸術はけっして高踏的な臭みもなく大衆へ向けた眼差しを持ちつづけたからこそ、いま時を越えて、見えなかったものが、新鮮さをもって私たちに語りかけてきたのだと思われる。

出品目録

図録NO	タイトル	制作年	技法材質	所蔵
第1章	工芸			
1-01	蜻蛉文箱	1913-23(大正2-12)年	彫刻・七宝・螺鈿・鉛象嵌・着色、木	愛知県美術館
1-02	柳文箱	1913-23(大正2-12)年	彫刻・鉛象嵌・金彩、木	京都国立近代美術館
1-03	梅花文文箱	1913-23(大正2-12)年	七宝・鉛象嵌・着色、木(内側:鉛象嵌・着色)	愛知県美術館
1-04	蜻蛉鬼百合文乱箱	1913-23(大正2-12)年	彫刻・七宝・鉛象嵌・着色、木	京都国立近代美術館
1-05	鶏頭文乱箱	1913-23(大正2-12)年	彫刻・七宝・鉛象嵌・着色、木	京都国立近代美術館
1-07	動物文小箱	1913-23(大正2-12)年	彫刻・鉛象嵌・着色、木	京都国立近代美術館
1-09	郵便箱	1913-23(大正2-12)年	着色、木	京都国立近代美術館
1-10	鷹狩図手筥	1916(大正5)年頃	七宝・螺鈿・鼈甲・漆、木(内側:着色)	碧南商工会議所
1-12	椿文時計箱	1913-23(大正2-12)年	彫刻・七宝・鉛象嵌・着色、木	個人蔵
1-13	電気スタンド	1913-23(大正2-12)年	打出・切透・着色、銅	東京国立近代美術館
1-15	秋の山書棚	1920(大正9)年	七宝・革・着色・金泥、木(内側:着色)	岡崎市美術館
1-16	銅切透七宝文巻雲紋手箱	1920(大正9)年	切透・七宝、銅	東京国立近代美術館
1-17	銅切透七宝若草文手箱	1921(大正10)年	打出・切透・七宝、銅	京都国立近代美術館
1-19	草花図(藤井房子)/紅白梅図	大正末期	七宝、銅/着色、綿布	岡崎市美術館
1-20	木彫芥子文飾筥	大正末期	彫刻・螺鈿・着色、木(内側:着色)	岡崎市美術館
1-21	草花文漆手筥	昭和初期	漆・着色、木(内側:着色)	岡崎市美術館
1-22	切透七宝白鳳瑞雲文御手箱	1942(昭和17)年	切透・七宝・着色、銅 (切透:橋本良介、七宝:勝利彦)	瀬戸市美術館
1-23	切透七宝白鳳瑞雲文御手箱下図(正面・側面・内側)	1942(昭和17)年	正面・側面:螺鈿・着色・銅、紙 内側:着色、紙	愛知県美術館
1-24	花器(うど乃実)	1913-23(大正2-12)年	銅	個人蔵
1-25	七宝塔文様壺	1913-23(大正2-12)年	七宝、銅	個人蔵
1-27	試作・海	1910(明治43)年	七宝、銅	愛知県美術館
1-28	七宝葡萄文小飾板	制作年不詳	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-29	七宝椿文小箱	1913-23(大正2-12)年	打出・七宝、銅	個人蔵
1-30	流水文皿	1913-23(大正2-12)年	打出・七宝、銅	京都国立近代美術館
1-31	七宝文筆皿	大正初期	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-32	七宝文筆皿	大正初期	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-33	七宝文筆皿	大正初期	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-34	草花文小皿	大正初期	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-35	七宝木の葉文小箱	大正初期	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-36	草花文筆筒	大正初期	七宝・銅、木	碧南市藤井達吉現代美術館
1-37	七宝花文蓋物	大正初期	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-38	七宝動物草花文小箱	大正初期	七宝・銅線、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-39	七宝小箱	大正初期	七宝・銅線、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-40	七宝草花文蓋物(蓋のみ)	大正初期	七宝、銅	碧南市藤井達吉現代美術館
1-41	七宝薊小皿	1913-23(大正2-12)年	打出・七宝、銅	京都国立近代美術館
1-43	鹿図盆	1913-23(大正2-12)年	彫刻・螺鈿・着色・漆、木	個人蔵
1-44	鹿図盆	1913-23(大正2-12)年	螺鈿・鉛象嵌・漆、木	京都国立近代美術館
1-47	雲龍文盆	1913-23(大正2-12)年	打出・彫金・七宝、銅	京都国立近代美術館
1-50	鹿絵丸盆	大正初期	彫刻・着色、木	碧南市藤井達吉現代美術館
1-51	線刻丸盆	大正初期	彫刻、木	碧南市藤井達吉現代美術館
1-52	絵変り四方盆　10点	1913-23(大正2-12)年	螺鈿・鉛象嵌・着色、木	個人蔵
1-53	草花文銘々盆　10点	1916(大正5)年頃	七宝・螺鈿・鉛象嵌、木	碧南商工会議所
1-54	札入・小袋・半衿　8点	1913-23(大正2-12)年	刺繍、麻、絹	個人蔵
1-56	野点茶箱	1946(昭和21)年頃	一閑張・着色、紙	愛知県美術館
1-58	染付けあざみ模様ティーポット	1913-23(大正2-12)年	陶磁器(絵付:藤井達吉、河合卯之助窯)	京都国立近代美術館
1-59	染付けあざみ模様小鉢	1913-23(大正2-12)年	陶磁器(絵付:藤井達吉、河合卯之助窯)	京都国立近代美術館
1-61	風景文銘々皿　5点	1935(昭和10)年頃	陶磁器(絵付:藤井達吉)	愛知県美術館

図録NO	タイトル	制作年	技法材質	所蔵
1-63	雲文大皿	1935(昭和10)年	陶磁器	碧南市藤井達吉現代美術館
1-64	葦花文八角皿	制作年不詳	陶磁器	碧南市藤井達吉現代美術館
1-65	蓬莱文継茶碗	制作年不詳	陶磁器	碧南市藤井達吉現代美術館
1-66	茶入(ゆめよ夢)	1950(昭和25)年頃	陶磁器	碧南市藤井達吉現代美術館
1-67	臈纈花鳥図壁掛	1913-23(大正2-12)年	蝋染、麻布	京都国立近代美術館
1-69	臈纈海草文壁掛	1913-23(大正2-12)年	蝋染、綿布	愛知県美術館
1-70	紺別珍地桐繍胴服	1913-23(大正2-12)年	刺繍・着色、別珍	京都国立近代美術館
1-71	白地松葉散し着物	制作年不詳	墨・金泥、絹	碧南市藤井達吉現代美術館
1-72	白地梅絵着物	制作年不詳	墨・着色・金泥、絹	碧南市藤井達吉現代美術館
1-73	金銀彩草花文帯	1913-23(大正2-12)年	金銀彩、絹	京都国立近代美術館
1-74	草花文袋帯	制作年不詳	木版染、絹	碧南市藤井達吉現代美術館
1-76	果物文名古屋帯	制作年不詳	金泥・着色、絹	碧南市藤井達吉現代美術館
第2章	絵画			
2-01	草木図屏風	1916(大正5)年頃	彫刻・螺鈿・七宝・鉛象嵌・着色、木	東京国立近代美術館
2-02	棕櫚図屏風	1916(大正5)年頃	打出・七宝、銅	京都国立近代美術館
2-03	草木図屏風	1916(大正5)年頃	打出・金彩・着色、銅	個人蔵
2-04	大島風物図屏風	1916(大正5)年	布縫付・刺繍・着色、紙(裏:着色、紙)	碧南商工会議所
2-05	草花図(表裏/表:藤井久和子)	1916(大正5)年頃	螺鈿・布縫付・刺繍・着色・金泥、綿布 (裏:墨、紙)	岡崎市美術館
2-06	山芍薬	1921(大正10)年	着色、絹	岡崎市美術館
2-07	山草図	大正時代	着色、絹	岡崎市美術館
2-08	薊図	大正後期	着色、紙	個人蔵
2-09	うるし深山(裏:水辺の石)	大正後期	漆・着色、絹(裏:着色、紙)	岡崎市美術館
2-11	桜図	1922(大正11)年頃	着色、紙	愛知県美術館
2-12	延齢草	制作年不詳	着色、紙	個人蔵
2-13	芍薬文鳥毛屏風	1931(昭和6)年	羽毛、綿布	碧南市藤井達吉現代美術館
2-15	大島遠望	1915(大正4)年頃	油彩、カンヴァス	愛知県美術館
2-16	うさぎ島	大正前期	油彩、紙	個人蔵
2-17	椿	1916(大正5)年頃	絹本着色	個人蔵
2-18	紫さんご	1921(大正10)年	絹本着色・金泥	碧南市藤井達吉現代美術館
2-19	草の一生　1〜15	大正後期	着色、絹	豊田市和紙のふるさと
2-20	山芍薬	1921(大正10)年頃	絹本着色	愛知県美術館
2-21	日光(朝)	1925(大正14)年	紙本着色	個人蔵
2-22	日光(昼)	1925(大正14)年	紙本着色	個人蔵
2-23	日光(夜)	1925(大正14)年	紙本着色	個人蔵
2-24	四季草花図　白根葵(春)	1926(大正15)年	絹本着色	岡崎市美術館
2-25	四季草花図　のだけ(夏)	1926(大正15)年	絹本着色	岡崎市美術館
2-26	四季草花図　あざみ(秋)	1926(大正15)年	絹本着色	岡崎市美術館
2-27	四季草花図　うばゆり(冬)	1926(大正15)年	絹本着色	岡崎市美術館
2-29	静物・花	大正末期	絹本着色	個人蔵
2-30	虹	大正末期	紙本着色・漆	個人蔵
2-32	深山つつじ	制作年不詳	紙本着色	岡崎市美術館
2-33	山ぎぼし	制作年不詳	紙本着色	個人蔵
2-34	草花図(茶室天井画) 36点	1935(昭和10)年	着色・漆、板	碧南市藤井達吉現代美術館
2-35	立葵	1928(昭和3)年頃	紙本着色・金銀泥・漆	碧南市藤井達吉現代美術館
2-36	祈り	昭和10年代	紙本着色	碧南市藤井達吉現代美術館
2-37	海辺の月	昭和10年代	紙本着色	愛知県美術館
2-38	春夏秋冬(春)	1940(昭和15年)頃	紙本墨画・金銀泥	碧南市藤井達吉現代美術館
2-39	春夏秋冬(夏)	1940(昭和15年)頃	1940(昭和15年)頃	碧南市藤井達吉現代美術館
2-40	春夏秋冬(秋)	1940(昭和15年)頃	紙本墨画・金銀泥	碧南市藤井達吉現代美術館
2-41	春夏秋冬(冬)	1940(昭和15年)頃	紙本墨画・金銀泥	碧南市藤井達吉現代美術館
2-42	さぎすげの花	1945(昭和20)年以降	紙本着色	碧南市藤井達吉現代美術館
2-43	斑鳩の里	昭和20年代	紙本着色・金泥	個人蔵
2-44	夕映	制作年不詳	紙本着色・金銀泥	個人蔵
2-46	土星	1953(昭和28)年頃	紙本着色、金箔	個人蔵
2-47	やまいも(やまひとが)	制作年不詳	紙本墨画	碧南市藤井達吉現代美術館

図録NO	タイトル	制作年	技法材質	所蔵
2-48	碧南にて(げんごろう)	1950-55(昭和25-30)年頃	紙本墨画・金泥	碧南市藤井達吉現代美術館
2-49	継色紙	1945(昭和20)年以降	着色・金箔、継紙	碧南市藤井達吉現代美術館
2-50	継色紙(わかきひとの)	1945(昭和20)年以降	着色・墨書、継紙	碧南市藤井達吉現代美術館
2-51	継色紙(やまのおくの)	1945(昭和20)年以降	着色・墨書・金箔、継紙	碧南市藤井達吉現代美術館
第3章	図案/資料			
3-01	創作染織図案集	1933(昭和8)年	木版、小原和紙・木綿(50枚セット/50部刊行)	岡崎市美術館
3-02	図案集『路傍』 (限定50部のうち15号)	1938(昭和13)年	着色、小原和紙(50枚セット)	岡崎市美術館
3-04	『藝美』1号、2号	1914(大正3)年	(発行:三笠美術店)	個人蔵
	三笠美術店関連資料(展覧会案内葉書、目録)	1914(大正3)年		個人蔵
3-06	版画封筒帖(佐々木画材店)	大正初期	木版、紙	個人蔵
3-07	黒田朋信(鵬心)宛葉書	1920(大正9)年		個人蔵
3-09	装幀　長田幹彦著『霧』	1914(大正3)年	(発行:九十九書房)	渋谷区立松濤美術館
3-11	装幀　木谷蓬吟著『大近松全集』	1922(大正11)年	(発行:大近松全集刊行会)	個人蔵
3-12	装幀　宇野千代著『幸福』	1924(大正13)年	(発行:金星堂)	渋谷区立松濤美術館
3-13	装幀　島本久恵著『長流』(第3巻)	1942(昭和17)年	(発行:女性時代社)	渋谷区立松濤美術館
3-14	『家庭手芸品の製作法』	1923(大正12)年	(発行:主婦之友社)	岡崎市美術館
3-15	『素人のための手芸図案の描き方 附録応用図案百種』	1926(大正15)年	(発行:主婦之友社)	個人蔵
3-16	『家庭で出来る手工芸品製作法全集』	1927(昭和2)年	(発行:主婦之友社)	個人蔵
3-17	『美術工芸の手ほどき』	1930(昭和5)年	(発行:博文館)	個人蔵
3-18	矢作堤(自筆自叙伝)	1962(昭和37)年		愛知県美術館

特別展

いま、台湾　台灣美術院の作家たち

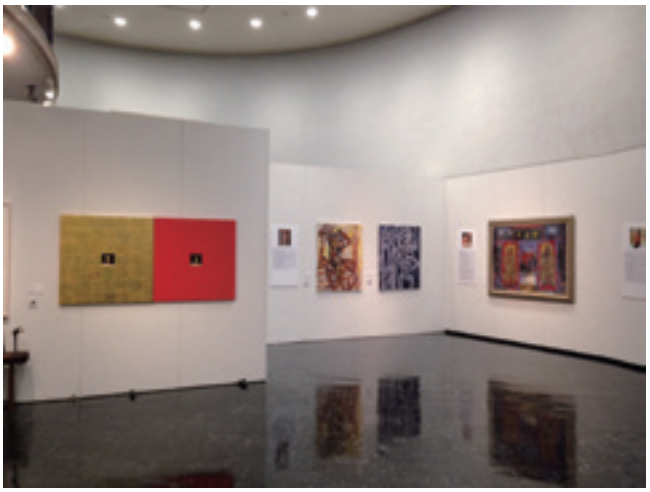
会期=平成26(2014)年8月9日(土)～9月21日(日)
会場=地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ、特別陳列室
主催=渋谷区立松濤美術館　台灣美術院　読売新聞社　美術館連絡協議会
協賛=財団法人台灣武智紀念基金曾　ライオン　清水建設　大日本印刷　損保ジャパン　日本興亜損保　日本テレビ放送網
後援=公益財団法人交流協会　行政院文化部　亜東関係協会　台北駐日経済文化代表処

当館では、これまでに「中国美術の精華―台北・鴻禧美術館所蔵品展」(2001)・「台湾の女性日本画家　生誕100年記念　陳進展」(2006)・「台湾の心・台湾の情　廖修平・江明賢二人展」(2009))のほか、「20世紀中国画壇の巨匠傅抱石―日中美術交流のかけ橋」(1999)や「上海　近代の美術」(2007)で國立故宮博物院・台北市立美術館・鴻禧美術館などの公私の美術館や収蔵家の作品を出品するなど、台灣との文化交流に努めてきた。

本展で紹介した台灣美術院は、台灣美術界において指導的地位にある王秀雄・廖修平・傅申・何懐碩・江明賢・黄光男などの台灣師範大學卒業生が発起して、美術創作と理論研究に従事するとともに、産官学の連携を促進し、台灣美術の振興と発展、国際交流を図ることを目的として2010年に設立された。現在の院士二十余名は、美術理論・國画・油画・膠彩画・版画・書法・デザインなどの各分野で活躍し、台灣を代表する藝術家として国際的にも高い評価を受けている。

台灣美術は、中国美術の伝統を継承しつつ、日治時代に日本式美術教育が導入され、そうした教育を受けた学生たちの中には日本や欧州に留学して更なる研鑽をつむ者たちもいた。彼らは台灣美術の第一世代として、台灣の地方色を作品の中に取り入れ顕著な活躍を示した。中華民国になり、張大千・黄君璧・溥儒などが大陸から遷台し國画の復興に勤める一方で、日本・欧米への留学生が多数輩出し、現代絵画の潮流をもたらし、大陸の美術とは異なった台湾美術としての新たな展開が始まった。院士たちはこうした台灣美術の潮流の中で、それぞれが独自の作風を確立し、現在の台灣美術界を領導している存在である。

本展開催にあたっては、台湾美術院の作家達が来日、日本の作家達との交流を行ったりもした。日本では紹介されることの少ない現代の台湾美術の一端を紹介した意義は大きかったと思う。



出品目録

NO	作者名(生年)	作品題名(日語) 作品題名(中文)	制作年	材質	展示期間
1	陳銀輝(1931－)	門神	2009	油彩・キャンバス	前期
	Chen Yin-Huei	門神		油彩・畫布	
2	陳銀輝(1931－)	錯綜する樹影	2012	油彩・キャンバス	後期
	Chen Yin-Huei	錯綜舞影		油彩・畫布	
3	廖修平(1936－)	孤煙	2007	アクリル・金箔・キャンバス	
	Liao Shiou-Ping	孤煙		壓克力・金箔・畫布	
4	廖修平(1936－)	無語(一)	2009	シルクスクリーン・コラグラフ・紙	
	Liao Shiou-Ping	無語(一)		絲網版・紙凹版・紙	
5	廖修平(1936－)	迎福門　四	2011	アクリル・金箔・キャンバス	
	Liao Shiou-Ping	迎福門　四		壓克力・金箔・畫布	
6	傅申(1937－)	核電爆	2011	紙本墨書	
	Fu Shen	篆型合書核電爆		紙本墨書	
7	傅申(1937－)	彊震	2011	紙本墨書	
	Fu Shen	彊震		紙本墨書	
8	傅申(1937－)	海嘯	2011	紙本墨書	
	Fu Shen	海嘯		紙本墨書	
9	謝里法(1938－)	進化論四篇	2012	アクリル・キャンバス	
	Shaih Lifa	進化論四篇		壓克力・畫布	
10	何懷碩(1941－)	林の中	1991	紙本墨画淡彩	後期
	Ho Huai-Shuo	林隱		紙本墨畫淡彩	
11	何懷碩(1941－)	海韻	2007	紙本墨画淡彩	
	Ho Huai-Shuo	海韻		紙本墨畫淡彩	
12	何懷碩(1941－)	空茫	2007	紙本墨画淡彩	
	Ho Huai-Shuo	空茫		紙本墨畫淡彩	
13	何懷碩(1941－)	月の河	2008	紙本墨画淡彩	前期
	Ho Huai-Shuo	月河		紙本墨畫淡彩	
14	江明賢(1942－)	カレル橋	2013	紙本墨彩	
	Chiang Ming-Shyan	查理大橋		紙本墨彩	
15	江明賢(1942－)	瞿塘峽	2014	紙本墨彩	
	Chiang Ming-Shyan	瞿塘峽		紙本墨彩	
16	呉炫三(1942－)	東アフリカの女	2007	アクリル・キャンバス	
	Wu A-Sun	東非洲一個女的盼望		壓克力・畫布	
17	呉炫三(1942－)	一対	2011	アクリル・キャンバス	
	Wu A-Sun	一對		壓克力・畫布	
18	顧重光(1943－)	赤い柳の籠の中のザクロ	2008	油彩・キャンバス	
	Koo Chung-Kuang	紅柳籃子大石榴		油彩・畫布	
19	顧重光(1943－)	エドレスの絹の上の染付瓶の牡丹	2012	油彩・金箔・キャンバス	
	Koo Chung-Kuang	牡丹青花瓶艾特萊斯綢		油彩・金箔・畫布	
20	黃光男(1944－)	一縷相思南山行	2013	紙本墨画淡彩	
	Huang Kuang-Nan	一縷相思南山行		紙本墨畫淡彩	
21	黃光男(1944－)	日静無雲時	2013	紙本墨画淡彩	
	Huang Kuang-Nan	日靜無雲時		紙本墨畫淡彩	
22	曾長生(1945－)	霊光03	2012	ミクストメディア・キャンバス	
	Tseng Chang-Shen	靈光03		複合媒材・畫布	
23	曾長生(1945－)	霊光06	2012	ミクストメディア・キャンバス	
	Tseng Chang-Shen	靈光06		複合媒材・畫布	
24	鐘有輝(1946－)	勁流	2012	ミクストメディア・キャンバス	
	Chung You-Hui	勁流		複合媒材・畫布	
25	鐘有輝(1946－)	気韻動能	2012	ミクストメディア・キャンバス	
	Chung You-Hui	氣韻動能		複合媒材・木板	
26	蘇憲法(1948－)	流れる影	2011	油彩・ボード	
	Su Hsien－Fa	流影		油彩・紙板	
27	蘇憲法(1948－)	蓮	2012	油彩・キャンバス	
	Su Hsien－Fa	荷		油彩・畫布	
28	詹前裕(1952－)	玉山の柏―豊盛	2013	膠彩・紙	
	Chan Chien-yu	玉山圓柏―豐盛		膠彩・紙	
29	詹前裕(1952－)	玉山の柏―枯寂	2013	膠彩・紙	
	Chan Chien-yu	玉山圓柏―枯寂		膠彩・紙	

NO	作者名（生年）	作品題名（日語） 作品題名（中文）	制作年	材質	展示期間
30	林章湖（1955－）	躍魚図	1990	紙本墨画淡彩	
	Lin Chang-Hu	躍魚圖		紙本墨畫淡彩	
31	林章湖（1955－）	宰相帰田	2009	紙本墨書	
	Lin Chang-Hu	宰相歸田		紙本墨書	
32	林章湖（1955－）	隠遁の歳月	2012	紙本墨画淡彩	
	Lin Chang-Hu	隱遯歲月		紙本墨畫淡彩	
33	李振明（1955－）	パイワンの物語	1999	紙本着彩	
	Lee Cheng-Ming	排灣記事		紙本着彩	
34	李振明（1955－）	五つの山	2008	紙本着彩	
	Lee Cheng-Ming	五嶽看山不是山		紙本着彩	
35	李振明（1955－）	七家湾の夢	2008	紙本着彩	
	Lee Cheng-Ming	夢迴七家灣		紙本着彩	
36	薛保瑕（1956－）	思維動向	2013	アクリル・キャンバス	
	Hsuah Pao-Shia	思維動向		壓克力・畫布	
37	薛保瑕（1956－）	時延の域	2013	アクリル・キャンバス	
	Hsuah Pao-Shia	時延之域		壓克力・畫布	
38	林磐聳（1957－）	漂泊する台湾	1993	コンピューター・グラフィックス	
	Lin Pang-Soong	漂泊的臺灣		電腦繪圖	
39	林磐聳（1957－）	多彩な世界、麗しき台灣	2005	コンピューター・グラフィックス	
	Lin Pang-Soong	多彩的世界，美麗的臺灣		電能繪圖	
40	游明龍（1957－）	文字風景：冬雪	2014	コンピューター・グラフィックス	
	Yu Minag-Lung	文字風景：冬雪		電能繪圖	
41	游明龍（1957－）	文字風景：春雨	2014	コンピューター・グラフィックス	
	Yu Minag-Lung	文字風景：春雨		電能繪圖	
42	游明龍（1957－）	漢字系列：喜	2014	コンピューター・グラフィックス	
	Yu Minag-Lung	漢字系列：喜		電能繪圖	
43	游明龍（1957－）	漢字系列：楽	2014	コンピューター・グラフィックス	
	Yu Minag-Lung	漢字系列：樂		電能繪圖	
44	郭博州（1960－）	心を太玄に遊ばす	2011	ミクスドメディア・キャンバス	
	Kuo Bor-Jou	游心太玄		複合媒材・畫布	
45	郭博州（1960－）	蔵輝	2013	ミクスドメディア・キャンバス	
	Kuo Bor-Jou	藏輝		複合媒材・畫布	
46	林俊良（1962－）	愛地球	2013	ポスター	
	Lin Chun-Liang	愛地球		海報	
47	林俊良（1962－）	地球温暖化	2013	ポスター	
	Lin Chun-Liang	全球暖化		海報	
	特別出品				
48	鄭善禧（1932－）	行書七言聯	1998	紙本墨書	
	Cheng Shan-His	行書七言聯			
49	鄭善禧（1932－）	行書劉長静詩	2011	紙本墨書	
	Cheng Shan-His	行書劉長靜詩			
50	鄭善禧（1932－）	行書五言聯	2011	紙本墨書	
	Cheng Shan-His	行書五言聯			
51	鄭善禧（1932－）	行書王維詩	2011	紙本墨書	
	Cheng Shan-His	行書王維詩			
52	ジュディ・オング倩玉	紅樓依緑	2005	木版・紙	
	Judy Ongg	紅樓依綠			
53	ジュディ・オング倩玉	銀閣瑞雪	2006	木版・紙	
	Judy Ongg	銀閣瑞雪			
54	ジュディ・オング倩玉	萬壽亭	2009	木版・紙	
	Judy Ongg	萬壽亭			

リニューアル記念特別展

御法に守られし　醍醐寺

会期=平成26（2014）年10月7日（火）～11月24日（月・祝）

会場=地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ、特別陳列室

主催=渋谷区立松濤美術館　総本山醍醐寺

京都の醍醐寺は、平安時代に創建された世界遺産の寺院である。貞観16年（874）に理源大師聖宝が京都山科の笠取山上に草庵をむすんだことにはじまり、醍醐天皇の御願寺としてその発展の礎をきずくことになった。醍醐寺は、創建以来密教の中核寺院としての役割をになうとともに、文芸や美術工芸の後援者として日本の伝統文化の形成に多大な寄与をしてきた。そこには、貴重な仏像・仏画をはじめとして、歴代座主の画像や江戸時代の屏風絵、経典類など約20万点の寺宝が蔵されている。

本展では、釈迦の前世における善行から現世で悟りを開くまでの伝記を、経典に基づいて絵画化した奈良時代の絵巻である国宝の「過去現在絵因果経」を中心に、仏像・仏画・経典類を交えて醍醐寺の聖なる姿を伝えると同時に、近世の美術工芸品をあわせて展観することで文雅の後援者としての醍醐寺の魅力を紹介した。出陳総数44点のうち、国宝が７点、重要文化財が14点という国の指定品の多い展示となった。リニューアル記念の本展は、醍醐寺に伝わる名宝の数々を13年ぶりに東京で展観できる貴重な機会でもあった。さらに全会期の３分の２の期間で国宝の「過去現在絵因果経」の全場面を公開するという特別な展示方法をとり、このような稀有な機会に来館されたお客さまには大変好評だった。

出品目録

●国宝　◎重文

第1章　み仏のおしえ　～「国宝　過去現在絵因果経」と経典類～							
1	●	過去現在絵因果経		1巻	紙本著色	奈良	8c
2	●	紺紙金字般若波羅密経　随喜品	伝菅原道真筆	1巻	紺紙金字	平安	11c
3	◎	弘法大師二十五箇条遺告		1巻	紙本墨書	平安	12c
4	●	大日経開題	空海筆	1巻	紙本墨書	平安	9c
5	●	金光明最勝王経	伝小野道風筆	1巻	紙本墨書	平安	10c
6	●	法華経薬王品	伝藤原行成筆	1巻	彩箋墨書	平安	10～11c
7	◎	十巻抄の内　巻3		1巻	紙本著色	鎌倉	建久4(1193)
第2章　み仏のすがた　～密教の彫刻と絵画～							
8	●	閻魔天像		1幅	絹本著色	平安～鎌倉	12c
9	●	訶梨帝母像		1幅	絹本著色	鎌倉	13c
10	◎	大日金輪像　胎蔵界		1幅	絹本著色	鎌倉	13c
11	◎	虚空蔵菩薩像		1幅	絹本著色	鎌倉	13c
12-1		不動明王(五大尊像の内)		1幅	絹本著色	室町	15c
12-2		大威徳明王(五大尊像の内)		1幅	絹本著色	室町	15c
13	◎	五秘密像(五秘密曼荼羅)		1幅	絹本著色	鎌倉～南北朝	14c
14		水月観音像		1幅	紙本白描	鎌倉	14c
15-1		帝釈天(白描十二天像の内)		1幅	紙本白描	鎌倉	13c
15-2		地天(白描十二天像の内)		1幅	紙本白描	鎌倉	13c
15-3		水天(白描十二天像の内)		1幅	紙本白描	鎌倉	13c
15-4		羅刹天(白描十二天像の内)		1幅	紙本白描	鎌倉	13c
16		金剛薩埵像		1幅	絹本著色	室町	15c
17		一字金輪曼荼羅		1幅	絹本著色	南北朝	14c
18		馬鳴菩薩像		1幅	紙本淡彩	鎌倉	14c
19	◎	地蔵菩薩像		1面	絹本著色	鎌倉	13c
20	◎	不動明王像(五大明王像の内)		1躯	木造彩色	平安	10c
第3章　み仏とつながる　～密教法具類～							
21		金銅装獅子文説相箱		1口	木製、金銅装	江戸	文化4(1807)
22	◎	鍍金輪宝羯磨文戒体箱		1合	木地、銅鍍銀板、金銅板装	鎌倉	13c
23	◎	金銅毛彫如意		1柄	銅鋳製鍍金	平安	11c
24		金銅如意		1柄	銅鋳製鍍金	江戸	18c
25		金銅三鈷杵		1柄	銅鋳製鍍金	平安	12c
26		金銅独鈷杵		1柄	銅鋳製鍍金	平安	12c
第4章　醍醐にひらく文雅　～桃山・江戸時代の絵画と工芸品～							
27	◎	舞楽図屏風	俵屋宗達筆	2曲1双	紙本金地著色	江戸	17c
28	◎	扇面貼付屏風	俵屋宗達筆	2曲1双	紙本金地著色	江戸	17c
29		楓図屏風	山口雪渓筆	6曲1双	紙本金地著色	江戸	17～18c
30		幔幕図屏風	生駒等寿筆	6曲1双	紙本金地著色	江戸	17c
31		理源大師像	元和7年(1621)修復銘	1幅	絹本著色	室町	15c
32		満済像	土佐行広筆	1幅	絹本著色	室町	永享6(1434)
33		義演像		1幅	絹本著色	江戸	寛永4(1627)
34		豊臣秀吉像		1幅	絹本著色	江戸	19c
35	●	豊国大明神　神号		1幅	紙本墨書	江戸	江戸前期
36		秋草図屏風		6曲1双の内片隻	紙本著色	江戸	17c
37		大手鑑		1帖	紙本墨書	奈良～江戸	
38		金天目・天目台		2口・1基の内	天目:木胎・金板　天目台:金鍍金	桃山	16c
39		桜富士図茶碗	道八	1口	陶器	江戸	18～19c
40		桐紋蒔絵角盥・楾		1具	木製漆塗蒔絵	桃山	17c
41		桐紋蒔絵炭斗		1口	木製漆塗蒔絵	桃山	17c
42	●	織田信長黒印状 醍醐寺年預宛「就在陣祈祷之…」		1通	紙本墨書	桃山	
43	●	豊臣秀吉書状(席次の次第)		1通	紙本墨書	桃山	天正13年(1585)7月15日
44	●	徳川家康書状「真言宗諸法度」		1通	紙本墨書	江戸	元和元年(1615)

特別展

天神万華鏡　～常盤山文庫所蔵 天神コレクションより～

会期=平成26（2014）年前期　2014年12月9日（火）～2015年1月25日（日）

会場=地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ

主催=渋谷区立松濤美術館

学問の神様として祭られる菅原道真の姿は古来より様々な形で表現されてきた。本展では、昭和18年、鎌倉に実業家菅原通済により創設された常盤山文庫のコレクションから天神に関係する絵画・版画などを出陳した。天神の縁起絵巻や菅原道真が中国に渡り、禅僧に参禅したという伝説を絵画化した「渡唐天神像」などを展観することで、菅原道真という人間が、いかにして天神という存在として人々の間に広く浸透していったかという天神の諸相を紹介した。

地下 1 階展示室では、「束帯天神像」「渡唐天神像」「綱敷き天神像」といった典型的な三種類の天神像の肉筆画を展示した。さらに 2 階サロンミューゼでは浮世絵版画を中心に展示をし、信仰の対象としての天神像のほか、『菅原伝授手習鑑』として歌舞伎の演目ともなった天神の姿を芝居絵を交えて構成した。ギャラリートークで芝居になった天神の話などしたところ、来館者が大変興味を持って聞いてくれた。また、関連イベントで人間国宝 竹本駒之助による女流義太夫公演を行ったところ来場者には大変好評だった。

出品目録

番号	指定	作品名	作者名	員数	材質技法	時代	世紀	前期	後期
序章　天神の居ます処　―北野天満宮―									
1		北野社頭図	狩野松栄	一幅	紙本墨画	室町～桃山時代	16世紀		
2		天神像	三浦乾也	一躯	木造彩色	明治時代	明治12年（1879）		
第1章　人から神へ　―菅原道真、天神となる―									
3		束帯天神像		一幅	絹本著色	室町時代	16世紀		
4		束帯天神像		一幅	紙本著色	室町時代	16世紀		
5		束帯天神像		一幅	絹本著色	室町時代	15世紀		
6		束帯天神像		一幅	絹本著色	室町時代	15～16世紀		
7		束帯天神像	土蔵栄相	一幅	紙本著色	室町時代	15～16世紀		
8		束帯天神像		一幅	絹本著色	室町時代	16世紀		
9		束帯天神像		一幅	絹本著色	桃山～江戸時代	16～17世紀		
10		束帯天神像		一幅	絹本著色	室町～桃山時代	16～17世紀		
11		束帯天神像		一幅	紙本著色	江戸時代	18世紀		
12		束帯天神像		一幅	絹本著色	室町～桃山時代	16～17世紀		
13		束帯天神像	等碩	一幅	紙本著色	室町～江戸時代	16～17世紀		
14		束帯天神像	雲谷等的	一幅	紙本墨画	江戸時代	17世紀		
15		束帯天神像	伝 雪舟	一幅	紙本著色	江戸時代	18世紀		
16		束帯天神像	狩野松栄	一幅	紙本著色	室町～桃山時代	16世紀		
17		束帯天神像	土佐光起	一幅	絹本著色	江戸時代	寛文13年（1673）		
18		束帯天神像	酒井抱一	一幅	絹本著色	江戸時代	18～19世紀		
19		束帯天神像	鈴木其一	一幅	絹本著色	江戸時代	19世紀		
20		束帯天神像	徳川斉昭	一幅	絹本著色	江戸時代	19世紀		
21		束帯天神像	白井直賢	一幅	絹本著色	江戸時代	19世紀		
22		束帯天神像	相澤文石	一幅	絹本著色	江戸時代	嘉永2年（1849）		
23		束帯天神像	岩倉具選	一幅	紙本著色	江戸時代	18～19世紀		
24		菅公像	加藤信清	一幅	絹本著色	江戸時代	18～19世紀		
25		天神像	竹沢養渓	一幅	絹本著色	江戸時代	18～19世紀		
第2章　海を渡った天神　―渡唐天神―									
26		渡唐天神像		一幅	紙本著色	室町時代	15～16世紀		
27		渡唐天神像	得栖	一幅	紙本著色	室町時代	16世紀		
28		渡唐天神像		一幅	紙本著色	室町時代	15～16世紀		
29		渡唐天神像	孤月周林	一幅	紙本著色	室町時代	16世紀		
30		渡唐天神像	式部輝忠	一幅	紙本著色	室町時代	16世紀		
31		渡唐天神像	伝 狩野正信	一幅	紙本著色	室町時代	15～16世紀		
32		渡唐天神像	玄也	一幅	紙本著色	室町時代	16世紀		
33		渡唐天神像		一幅	紙本著色	室町時代	16世紀		
34		渡唐天神像		一幅	絹本著色	室町時代	16世紀		
35		渡唐天神像	伝 祥啓	一幅	紙本墨画	室町時代	16世紀		
36		渡唐天神像		一幅	紙本墨画	桃山時代	16～17世紀		
37		渡唐天神像	雪洞斎東敬	一幅	紙本墨画淡彩	江戸時代	18世紀		
38		渡唐天神像		一幅	紙本著色	江戸時代	18～19世紀		
39		渡唐天神像	近衛信尹	一幅	紙本墨画	江戸時代	慶長14年（1609）		
40		渡唐天神像	伝 近衛信伊	一幅	紙本墨画	江戸時代	17～18世紀		
41		渡唐天神像	伝 仙厓義梵	一幅	紙本墨画	江戸時代	19世紀		
第3章　流される天神　―綱敷天神―									
42		綱敷天神像		一幅	絹本著色	南北朝時代	延文5年（1360）		
43	○	綱敷天神像	武田信廉	一幅	紙本著色	室町時代	16世紀		
44		綱敷天神像		一幅	紙本著色	江戸時代	18世紀		
45		綱敷天神像	狩野探一	一幅	紙本著色	江戸時代	19世紀		
第4章　天神のパートナー									
46		天神・文殊像		一幅	絹本著色	室町～桃山時代	16～17世紀		
47		人麿・天神像		一幅	絹本著色	室町時代	16世紀		
48		騎牛天神像		一幅	絹本著色	江戸時代	18～19世紀		
第5章 菅原道真の生涯　―誕生から天神になるまで―									
49	○	北野天神縁起絵巻		三巻	紙本著色	室町時代	15～16世紀	1巻	2・3巻
50		天神変相図	北尾重政	一枚	短冊判墨摺絵	江戸時代	明和～安永年間（1764～81）		
51		天神変相図	鳥居清長	一枚	短冊判墨摺絵	江戸時代	18世紀		

番号	指定	作品名	作者名	員数	材質技法	時代	世紀	前期	後期
52		子育天満宮		一枚	札		19～20世紀		
53		鵜飼天神像		一枚	札		19～20世紀		
54		幻之天神御影		一枚	札		19～20世紀		
55		束帯天神像		一枚	大々判墨摺絵	江戸時代			
56		渡唐天神像		一枚	大々判墨摺絵	江戸時代			
57		渡唐天神像	西村重長	一枚	柱絵判紅摺絵	江戸時代	宝暦年間（1751～64）		
58		束帯天神像	渓斎英泉	一枚	掛物絵判錦絵	江戸時代	文政年間（1818～30）		
59		束帯天神像	河鍋暁斎	一枚	大判錦絵二枚続	江戸～明治時代	安政5～明治3年（1858～70）		
60		天満宮御一代記	北尾重政	十二枚	小判錦絵	江戸時代	安永年間（1772～81）		
61		束帯天神像	鈴木春信	一枚	大々判紅摺絵	江戸時代	宝暦年間（1751～64）		
62		大坂新町ねりもの	柳川重信	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政5年（1822）		
63		天満大自在威徳天神像	歌川芳虎	二枚	大判錦絵二枚続	江戸時代末期～明治時代初期	19世紀		
64		騎牛天神像	狩野昭玉昭信	一枚	中判錦絵	江戸時代末期～明治時代	19世紀		
65		騎牛天神像		二枚	大判錦絵二枚続	江戸時代末期～明治時代初期	19世紀		
66		梅を一生辰のとし神木の木性	菊川英山	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政年間（1818～30）		
67		月百姿　菅原道真	月岡芳年	一枚	大判錦絵	明治時代	明治19年（1886）		
68		菅公配所之図	小林清親	三枚	大判錦絵三枚続	明治時代	明治17年（1884）		
第6章 芝居になった天神さま									
69		二代目市川海老蔵の雷神	二代目鳥居清倍	一枚	細判漆絵	江戸時代	延享4年（1747）		
70		菅原三ノ口	歌川豊国	二枚	細判錦絵二枚続	江戸時代	享和年間（1801～04）		
71		菅原伝授手習鑑　車引	三代歌川豊国	二枚	大判錦絵二枚続	江戸時代	嘉永3年（1850）		
72		菅原伝授手習鑑 車引	三代歌川豊国	三枚	大判錦絵三枚続	江戸時代	安政4年（1857）		
73		狂言名代菅原伝授車引之段	歌川貞秀	一枚	団扇絵判錦絵	江戸時代	文化～文政年間（1804～30）		
74		九百五十年忌天満宮開帳	三代歌川豊国	三枚	大判錦絵三枚続	江戸時代	嘉永5年（1852）		
75		松王丸　梅王丸	三代歌川豊国	二枚	大判錦絵二枚続	江戸時代	安政4年（1857）		
76		菅原伝授手習鑑　車引	歌川国貞	三枚	色紙判摺物三枚続	江戸時代	天保7年（1836）		
77		菅原伝授手習鑑	歌川国芳	三枚	大判錦絵三枚続	江戸時代	文化12～天保13年（1815～42）		
78		芝居絵	二代勝川春好・北妙	一枚		江戸時代	文化～文政年間（1804～30）頃		
79		浮絵菅原四段目	栄松斎長喜	一枚	大判錦絵	江戸時代	寛政年間（1789～1801）		
80		菅原伝授大序	歌川貞秀	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政～天保年間（1818～44）		
81		菅原伝授伝授場	歌川貞秀	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政～天保年間（1818～44）		
82		菅原伝授道明寺の段	歌川貞秀	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政～天保年間（1818～44）		
83		菅原伝授車引の段	歌川貞秀	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政～天保年間（1818～44）		
84		菅原伝授寺子屋の段	歌川貞秀	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政～天保年間（1818～44）		
85		菅原伝授牛の講釈場	歌川貞秀	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政～天保年間（1818～44）		
86		菅原伝授大切	歌川貞秀	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政～天保年間（1818～44）		

番号	指定	作品名	作者名	員数	材質技法	時代	世紀	前期	後期
87		玄番尾上松助 松王丸沢村源之助	歌川国貞	一枚	大判錦絵	江戸時代	文化年間（1804～18）		
88		かんせうぜう尾上菊五郎 八重沢村田之助	歌川豊国	二枚	大判錦絵二枚続	江戸時代	享和年間（1801～04）		
89		せうぜう尾上菊五郎 白太夫中村芝翫	歌川豊国	二枚	大判錦絵二枚続	江戸時代	文化年間（1804～18）		
90-1		当世押絵羽子板 市川男女蔵の梅王丸	歌川国貞	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政年間（1818～30）		
90-2		当世押絵羽子板 尾上菊五郎の桜丸	歌川国貞	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政年間（1818～30）		
91		役者はんじもの 中村歌右衛門の松王丸	歌川国貞	一枚	大判錦絵	江戸時代	文化9年（1812）頃		
92		名優四君子	豊原国周	一枚	大判錦絵	明治時代	明治27年（1894）		
93		名優四君子	豊原国周	一枚	大判錦絵	明治時代	明治27年（1894）		
94		見立三十六歌仙之内 舎人松王丸	三代歌川豊国	一枚	大判錦絵	江戸時代	嘉永5年（1852年）		
95		江戸名所図絵廿五 一本松 舎人松王丸	三代歌川豊国	一枚	大判錦絵	江戸時代	嘉永5年（1852年）		
96		擬絵当合 丑 舎人桜丸 女房八重	三代歌川豊国	一枚	大判錦絵	江戸時代	嘉永5年（1852年）		
97		菅原道真天拝山祈之図 尾上菊五郎	豊原国周	三枚	大判錦絵三枚続	明治時代	明治24年（1891）		
98		菅原図面番附正本写 東錦絵	歌川豊国	三枚	大判錦絵三枚続	江戸時代	享和元年（1801）		
99		大芝居繁栄之図	三代歌川豊国	三枚	大判錦絵三枚続	江戸時代	安政6年（1859）		
100		東京改良演芸会之図	三代歌川豊国	三枚	大判錦絵三枚続	明治時代	明治22年（1889）		
第7章 名所になった天神さま									
101		江戸名所 亀戸天満宮	歌川広重	一枚	大判錦絵	江戸時代	安政元年（1854）		
102		浮絵亀井戸天神社地之図	澤雪嵩	一枚	大判錦絵	江戸時代	文化年間（1804～18）		
103		亀戸の藤	歌川国安	一枚	大判錦絵	江戸時代	文政年間（1818～30）		
104		江戸自慢三十六興 亀井戸初卯詣	三代歌川豊国・二代歌川広重	一枚	大判錦絵	江戸時代	元治元年（1864）		
105		亀戸藤の景	三代歌川豊国	三枚	大判錦絵三枚続	江戸時代	天保14～弘化3年（1843～46）		
106		江都梅屋舗臥龍梅之図	渓斎英泉	一枚	大判錦絵	江戸時代	天保年間（1830～44）		
107		東京名所真景之内 睦月 亀井戸臥龍梅	小林清親	三枚	大判錦絵三枚続	明治時代	明治29年（1896）		
108		亀戸梅屋敷	小林清親	一枚	大判錦絵	明治時代	明治12年（1879）		
109		江都名所 湯しま天神社	歌川広重	一枚	大判錦絵	江戸時代	天保年間（1830～44）		
110		江戸名所 湯島天満宮	歌川広重	一枚	大判錦絵	江戸時代	安政元年（1854）		
111		名所江戸百景 湯しま天神坂上眺望	歌川広重	一枚	大判錦絵	江戸時代	安政3年（1856）		

2015　松濤美術館公募展

会期=平成27（2015）年2月8日（日）～22日（日）

会場=地下1階主陳列室

主催=渋谷区立松濤美術館

松濤美術館公募展は、渋谷区に在住、在勤および在学の方々を対象に、その創作活動の活性化を目指してはじめられ、毎年の年中行事として定着した。写真、書を除く平面作品で未発表のものを壁面展示可能な状態で応募して頂くのが条件である。32年目を迎えた本年は、140名の応募者から204点の力作が寄せられた。今年から松濤美術館賞、優秀賞、奨励賞という従来の賞はそのままに、奨励賞の対象者を５名から10名に増やした。また、秀逸な学生１名を対象者とした学生優秀賞をあらたに設けた。

３名の審査員により厳正な審査を行い、その中から下記の通り82人84点を選出し入選作品とした。これらの入選作品はすべて展覧会に出陳される。そのうち下記の通り受賞作品が選ばれ、贈呈式にて表彰された。

審査状況

応募作品総数　　204点　140人
入選作品総数　　84点　82人

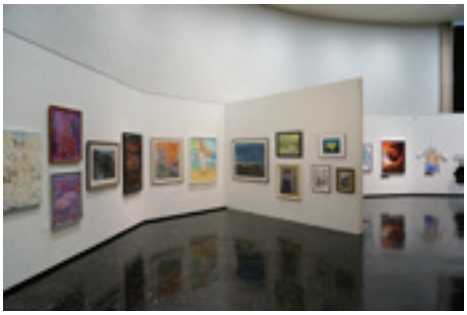
審査委員

中島千波（審査委員長・日本画家）
池田良二（版画家）
岡部あおみ（美術評論家）

受賞作品

［松濤美術館賞］
蔭山茂昭《それぞれの空》
［優秀賞］
政井亜子《光》
福田亜沙子《HAPPY AND LOVE》
［学生優秀賞］
東郷佑紀《なんのための思想》
［奨励賞］
加藤芳信《花はその花のように「迷い」》
志村美保子《幼き頃》
酒井七美《大山（だいせん）にて》
小林茂《黒いコート》
渡辺一松《奏…Ⅲ》
今井博子《Puzzle》
タワラ・トシノブ《Rise up》
立花眉子《フルーツアイコン》
西尾さつき《雪林》
桝井リザ《夏》

蔭山茂昭《それぞれの空》



サロン展

ロベール・クートラス展　夜を包む色彩

会期=平成27（2015）年2月8日（日）～3月15日（日）

会場=2階サロンミューゼ、特別陳列室

主催=渋谷区立松濤美術館

パリ・モンパルナスに生まれたロベール・クートラス（1930－1985）は、「現代のユトリロ」と言われていたが、パリの画廊と決別したあとは、一人だけの孤独な作業にのめり込んでいった。セーヌ左岸ヴォージラールの通称「金の太陽の宿屋」に住みながら、貧困と激しい精神的な浮沈のなかで55歳の生涯を終えた。

今回展示したほとんどの作品は、クートラスが死ぬまで手元に置いて離さなかった作品群で、遺作管理人である岸真理子・モリア氏による協力でパリから運んだ。その作品は初期の油彩画のほか、主となるのは1970年代以降のボール紙などに描いた独特のカルトと称される作品やグワッシュ、そしてテラコッタである。それらの作品には中世ロマネスク芸術の面影があり、プリミティブでありながら聖性を纏った世界観をもっている。

クートラスはそれまで日本では一部の画廊で紹介されてきただけであり、少数の熱狂的なファンを除いて、ほとんど知られていなかった。本展では20、30歳代の若い人たちの潜在的なファンが多く見られ、クートラスの世界がいかに日本で共感を呼んだかがわかる展観となった。

出品目録

分類	タイトル	制作年	寸法cm（縦×横、高さ）	技法・材質
C	すべてのカルト《僕の夜》	1970年以降	約12.0×6.0	油彩、厚紙
G-1	無題	1977年	58.0×32.0	グワッシュ、紙
G-2	無題	1977年	52.5×37.5	グワッシュ、紙
G-3	無題	1977年	40.3×56.5	グワッシュ、紙
G-4	無題	1978年	54.5×39.0	グワッシュ、紙
G-5	無題	1978年	44.7×36.6	グワッシュ、紙
G-6	無題	1978年	22.5×29.5	グワッシュ、紙、コラージュ
G-7	無題	1978年	21.0×34.0	グワッシュ、紙
G-8	無題	1978年	44.5×37.0	グワッシュ、紙
G-9	無題	1979年	32.0×26.5	グワッシュ、紙
G-10	無題	1979年か	38.0×33.0	グワッシュ、紙
G-11	無題	1980年頃	54.5×34.5	グワッシュ、紙
G-12	無題	1980年	47.5×38.0	グワッシュ、紙
G-13	無題	1980年	51.0×39.0	グワッシュ、紙
G-14	無題	1980年	51.5×36.5	グワッシュ、紙
G-15	無題	1980年	54.0×37.0	グワッシュ、紙
G-16	無題	1980年頃	43.0×36.5	グワッシュ、紙
G-17	無題	1980年頃	50.0×36.0	グワッシュ、紙
G-18	無題	1980年	50.5×64.5	グワッシュ、紙
G-19	無題	1980年	39.5×32.0	グワッシュ、紙
G-20	無題	1980年頃	60.0×40.0	グワッシュ、紙
G-21	無題	1980年	34.0×59.0	グワッシュ、紙
G-22	無題	1981年	40.0×29.5	グワッシュ、紙
G-23	無題	1982年	27.5×19.0	グワッシュ、紙
G-24	無題	1982年	35.0×37.0	グワッシュ、紙
O-1	聖母子	1968年	39.5×22.0	油彩、板
O-2	太陽	1960年代後半	26.7×22.0	油彩、キャンバス
O-3	無題	1960年代後半	30.5×24.5	油彩、板
O-4	無題	1973年頃	35.5×28.0	油彩・グワッシュ、紙
O-5	ナナカマドの籠の中の花の精	1975年	46.0×46.0	油彩、キャンバス
O-6	天使	1976年	21.7×15.0	油彩、板
O-7	無題	1977年	27.0×22.0	油彩、キャンバス
O-8	二つの月とご先祖様	1978年	44.8×36.7	油彩、キャンバス
O-9	月に抱かれた男	1978年	45.5×32.5	油彩、キャンバス
O-10	無題	制作年不詳	34.0×26.0	油彩、ボール紙
O-11	無題	制作年不詳	25.7×20.5	油彩、板
O-12	無題	制作年不詳	20.3×11.5	油彩、板・キャンバス
O-13	無題	1973年	55.5×46.0	油彩・グワッシュ、紙
T-1	無題	1975年	14.0×13.0×1.0	石膏
T-2	無題	1976年	11.0×8.0×6.0	テラコッタ
T-3	無題	制作年不詳	9.5×8.0	紙に石膏
T-4	無題	1978年	29.0×18.0×8.0	石膏
T-5	無題	1979年	21.0×18.0×8.0	セメント
T-6	無題	1979年	径9.0×1.0	テラコッタ
T-7	無題	制作年不詳	10.0×10.5×1.0	テラコッタ
T-8	無題	制作年不詳	13.0×11.0×2.5	テラコッタ
T-9	無題	制作年不詳	27.5×11.0×9.0	セメント
T-10	無題	1983年	9.0×7.0×3.0	テラコッタ
T-11	無題	制作年不詳	7.0×6.0×5.0	テラコッタ
T-12	無題	1983年	8.0×7×4.0	テラコッタ
T-13	無題	1978年	4.5×4.5.0×4.0	テラコッタ
T-14	無題	制作年不詳	4.5×6.0×4.0	テラコッタ
T-15	無題	1979年	10.0×6.0×5.0	テラコッタ
T-16	無題	制作年不詳	7.5×7.0×8.0	テラコッタ
T-17	無題	制作年不詳	3.5×2.0×6.0	テラコッタ
T-18	無題	1984	4.0×2.0×2.0	テラコッタ
D-1	無題	1958年	32.2×25.0	墨(?)、紙
D-2	無題	1961年	28.1×23.5	鉛筆、紙
D-3	無題	1960年	33.5×54.0	油彩、紙

分類	タイトル	制作年	寸法cm（縦×横、高さ）	技法・材質
D-4	無題	1970年	23.3×36.0	ペン・インク、紙
D-5	カルトのためのデッサン各種	1982年-85年		フェルトペン、紙
P-1	KOLINDA（ハンガリーの音楽バンド）ポスター	1976年	58.5×39.5	印刷
R-1	レコードジャケット	1976年頃	31.2×31.2	印刷

カルトについては、すべて《僕の夜》と名付けられている。大きさは例外的に大判15×8㌢のものがあるが、ほかはすべて12×6㌢である。また、制作年についても1970年頃以降とされている。
グワッシュ、油彩、テラコッタ、デッサンについては、ほとんどが《無題》でその多くは制作年が不明である。ただし、グワッシュは作者が「僕のご先祖さま」と呼んでいた。

第33回　渋谷区小中学生絵画展

会期=平成27（2015）年2月28日（土）～3月15日（日）
会場=地下1階主陳列室
主催=渋谷区立松濤美術館
同時開催：第33回渋谷区立小・中学校特別支援学級連合展覧会
会場＝地下2階ホール
主催＝渋谷区教育委員会

この展覧会は、渋谷区内の小中学校の先生方のご協力により、各校 4 ～10点の児童作品を集め、展示する。今回は187点の力作が集まった。

当館規定のもと限られた作品形式なかにも版画・水彩・クレヨンなど様々な技法で制作された作品のほか、絵画作品でありながら素材を支持体に貼り付けるなどの技法を用いた半立体的な作品も出陳された。近年は、特に技法の多様化が顕著にみられ、先生方の意欲的な授業への取り組みが伝わってくる内容となっているように思われる。

今年は、出陳作品の中から特に優秀な作品15点を選定し表彰した。

また、本年は、地下２階ホールが、渋谷区立小・中学校特別支援学級連合展覧会の会場となり、児童らの作品が展示された。

Ⅲ　出版

平成26(2014)年度

《カタログ》
リニューアル記念特別展「ねこ・猫・ネコ」
29.1cm×21.2cm
全184p、カラー図版98p

・田中貴子「漱石先生、猫みる会ぞもなし」
・味岡義人「中国絵画の中の猫」
・平塚泰三「『見立女三宮図』について」
・味岡義人「猫と人間の営みの歴史」
・味岡義人「猫の話あれこれ」
・作品解説
・作家略伝
・文献目録
・出品目録

《カタログ》
特別展「藤井達吉の全貌　野に咲く工芸／宙を見る絵画」
24.6cm×22.2cm
全216p、カラー図版166p

・木本文平「藤井達吉 - その人と芸術 - 」
・瀬尾典昭「藤井達吉の立つ場所 - 展覧会にあたって」
・前村文博「藤井達吉　年譜」
・千葉真智子「藤井達吉　参考文献」
・作品目録
・別冊付録：藤井達吉「自筆自叙伝　矢作堤」

《カタログ》
特別展「いま、台湾　台灣美術院の作家たち」
29.1cm×21.2cm
全136p、カラー図版87p

・王秀雄「ポストモダン／ポストコロニアルの台湾美術」
・廖新田「台湾製造美術　台灣美術院2014日本大展」
・森美根子「台灣美術院日本展に寄せて」
・味岡義人「台灣美術史における師範学校」
・出品目録

《カタログ》

リニューアル記念特別展 「御法に守られし　醍醐寺」

29.1㎝×21.2㎝

全124p、カラー図版80p

・西岡康宏「醍醐寺展への思い - 四度の縁を頂いて - 」
・仲田順和「御法に守られし醍醐寺展に寄せて -『醍醐寺のあゆみ』- 」
・平塚泰三「醍醐寺本『過去現在絵因果経』について」
・作品解説
・醍醐寺略年表　総本山醍醐寺編
・出品目録

《カタログ》

特別展「天神万華鏡　～常盤山文庫所蔵　天神コレクションより～」

29.1㎝×21.2㎝

全128p、カラー図版86p

・島尾新「天神万華鏡」
・平塚泰三「絵巻にみる天神・菅原道真の生涯」
・菅原道真関連略年譜
・稲葉久実「『菅原伝授手習鑑』- 演劇化された菅原道真」
・作品解説
・出品目録

《カタログ》

サロン展「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」

21.0㎝×21.0㎝

全18p、カラー図版14p

・夏目典子「カルト：時祈書のように、そして命の祝祭日」
・瀬尾典昭「クートラスという生きかた」
・ロベール・クートラス略年譜

Ⅳ　教育普及

1. 講演会

各企画展ではほぼ 1 回、展覧内容に関連した講演会を開催している。専門家による企画展出品作品の歴史的背景や芸術上の展望などが語られ、参加者からの質問も活発である。

平成26(2014)年度実績

期日	テーマ	講師(経歴は当時のもの)	参加者
4 月19日(土) 午後 2 時から	福猫たちの図像学―<江戸の動物画>の思考法	今橋理子(学習院女子大学教授)	108人
6 月15日(日) 午後 2 時から	藤井達吉の芸術と生涯	木本文平(碧南市藤井達吉現代美術館館長)	75人
8 月10日(日) 午後 2 時から	台灣美術の今を語る	廖修平(台灣美術院院長・版画家)	70人
10月12日(日) 午後 2 時から	作品詳解　醍醐寺本過去現在絵因果経について	平塚泰三(当館学芸員)	86人
10月13日(月・祝) 午後 2 時から	醍醐寺のあゆみ	仲田順和(総本山醍醐寺座主)	104人
10月18日(土) 午後 2 時から	密教美術の粋 ―醍醐寺の秘宝探訪―	松本伸之(京都国立博物館副館長)	60人
11月 1 日(土) 午後 2 時から	醍醐寺の文化財	長瀬福男(総本山醍醐寺広報室長)	85人
1 月10日(土) 午後 2 時から	天神万華鏡 ―学問の神のさまざまな姿	島尾新(学習院大学教授)	77人
2 月 8 日(日) 午後 2 時から	記念対談　クートラスを語る ―描くこと、生きること	堀江敏幸(作家) 岸真理子・モリア（遺作管理人）	193人

2. 美術教室

区内在住、在勤、在学者を対象に絵画等の基本を一通り学びたい人のために開講している。

平成26(2014)年度実績

教室	講師	期間・回数	曜日・時間	参加者 (応募者)
油絵教室	廣畑正剛	6 月19日～ 7 月17日・ 5 回	木曜日・午後 2 時～ 4 時	17人(17)
パステル教室	一の瀬洋	6 月20日～ 7 月18日・ 5 回	金曜日・午後 2 時～ 4 時	25人(38)
小中学生の木工教室	山崎隆、山崎香文子	8 月12、13日・ 2 回	火、水曜日・ 午後 2 時～ 4 時	20人(29)
水彩画教室A	小沢優子	10月22日～11月19日・ 5 回	水曜日・午後 2 時～ 4 時	24人(26)
水彩画教室B	奈良峰博	10月17日～11月21日・ 5 回	金曜日・午後 2 時～ 4 時	21人(22)

3. コンサート

平成26(2014)年度実績

実施日	コンサート名	出演者	演奏曲	参加人数
9月7日(日) 午後2時~3時	中国楽器による ミュージアムコンサート	太田久遠(二胡)	賽馬、蘇州夜曲　他	78人
11月3日(月・祝) 午後2時~3時30分	謡入門	上田公威		44人
11月23日(日) 午後6時~7時30分	夜のピアノコンサート	クラウス・スティッケン(ピアノ)、 百瀬喬(音楽評論家)	バッハ　パルティータ4番ニ長調、ショパン バラード第1番　他	58人
3月5日(木) 午後5時30分~6時30分	イブニングコンサート	Yui(ヴァイオリン)、 伊藤芳輝(ギター)	亡き王女の為のパヴェーヌ、夢のあとに　他	30人

4. 台湾映画会

平成26(2014)年度実績

実施日	題名	参加人数
8月30日(土)午後2時～3時30分	魔法使いのお婆さん	24人
9月13日(土)午後2時～3時30分	靴に恋する人形	29人

5. ギャラリートーク

平成26(2014)年度実績

実施日	展覧会名	参加者
4月26日(土)	ねこ・猫・ネコ	43人
5月6日(火・祝)	〃	45人
5月10日(土)	〃	47人
6月21日(土)	藤井達吉の全貌　野に咲く工芸／宙を見る絵画	7人
6月28日(土)	〃	10人
7月19日(土)	〃	14人
8月23日(土)	いま、台湾　台灣美術院の作家たち	22人
9月6日(土)	〃	19人
9月20日(土)	〃	24人
10月25日(土)	御法に守られし　醍醐寺	12人
11月15日(土)	〃	52人
12月16日(火)	天神万華鏡　～常盤山文庫所蔵　天神コレクションより～	15人
12月20日(土)	〃	10人
1月17日(土)	〃	30人

6. 美術館見学会＆ワークショップ

平成26(2014)年度実績

期日	題名	講師	内容	参加者
7月5日(土)	ワークショップ「空に舞うモビール作り」	長谷川ジェット	モビールの作成	20人
8月20日(水)	夏休み親子見学会＆わーくしょっぷ	文学座の俳優	・「いま、台湾」展の見学 ・絵本朗読『いすになった木』、「シアターゲーム」で表現	24人
8月21日(木)	〃	〃	〃	17人

7. 展覧会関連イベント

平成26(2014)年度実績

期日	イベント名	出演者	参加者
5月3日(土・祝) 午後2時～	ねこ・猫・ネコ落語	慶應義塾大学落語研究会	90人
1月12日(土) 午後2時～3時	女流義太夫演奏会 「菅原伝授手習鑑」	竹本駒之助(浄瑠璃・人間国宝) 鶴沢津賀寿(三味線) 濱口久仁子(早稲田大学演劇博物館招聘研究員)	125名

8. 建築ツアー

白井晟一設計の当館内を建築に関する説明を聞きながら見学します。

平成26(2014)年度実績

実施日：時間は各日午後6時～6時40分	参加者
5月2日(金)	14名
5月16日(金)	26名
6月20日(金)	10名
7月4日(金)	1名
7月28日(金)	4名
8月15日(金)	4名
9月5日(金)	8名
10月17日(金)	若干名
11月7日(金)	若干名
11月21日(金)	10名
12月12日(金)	0名
2月13日(金)＊	3名
3月6日(金)＊	若干名

註：＊印は実施時間が各日午後4時～4時40分頃

Ⅴ　入館状況

平成26(2014)年度実績

展覧会名	期間	入館者数	1日平均入館者数
ねこ・猫・ネコ	平成26年４月５日(土)～ ５月18日(日)　39日間	25,955人	666人
藤井達吉の全貌　野に咲く工芸／宙を見る絵画	平成26年６月10日(火)～ ７月27日(日)　42日間	3,990人	95人
いま、台湾　台灣美術院の作家たち	平成26年８月９日(土)～ ９月21日(日)　38日間	4,032人	106人
御法に守られし　醍醐寺	平成26年10月７日(火)～ 11月24日(月・祝)　43日間	10,202人	237人
天神万華鏡　～常盤山文庫所蔵　天神コレクションより～	平成26年12月９日(火)～ 平成27年１月25日(日)　36日間	3,875人	108人
2015　松濤美術館公募展 併催　「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」(前期)	平成27年２月８日(日)～ ２月22日(日)　12日間	4,025人	335人
第33回渋谷区小中学生絵画展 併催　第33回渋谷区立小・中学校特別支援学級連合展覧会 併催　「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」(後期)	平成27年２月28日(土) ～３月15日(日)　14日間	7,141人	510人

Ⅵ　日誌抄

※敬称略、肩書は当時のもの。

平成26年（2014）年度実績

４月５日（土）　リニューアル記念特別展「ねこ・猫・ネコ」始まる
４月19日（土）　講演会「福猫たちの図像学―<江戸の動物画>の思考法」
　講師：今橋理子（学習院女子大学教授）
５月３日（土・祝）　ねこ・猫・ネコ落語
　出演者：慶應義塾大学落語研究会
５月18日（日）　リニューアル記念特別展「ねこ・猫・ネコ」終了
５月20日（火）　理事会
５月27日（火）　評議員会
６月10日（火）　特別展「藤井達吉の全貌　野に咲く工芸／宙を見る絵画」始まる
６月15日（日）　講演会「藤井達吉の芸術と生涯」
　講師：木本文平（碧南市藤井達吉現代美術館館長）
７月27日（日）　特別展「藤井達吉の全貌　野に咲く工芸／宙を見る絵画」終了
８月９日（土）　特別展「いま、台湾　台灣美術院の作家たち」始まる
８月10日（日）　講演会「台灣美術の今を語る」
　講師：廖修平（台灣美術院院長・版画家）

９月21日（日）　特別展「いま、台湾　台灣美術院の作家たち」終了
10月７日（火）　リニューアル記念特別展 「御法に守られし　醍醐寺」始まる
10月12日（日）　講演会「作品詳解　醍醐寺本過去現在絵因果経について」
講師：平塚泰三（当館学芸員）
10月13日（月・祝）　講演会「醍醐寺のあゆみ」
講師：仲田順和（総本山醍醐寺座主）
10月18日（土）　講演会「密教美術の粋―醍醐寺の秘宝探訪―」
講師：松本伸之（京都国立博物館副館長）
11月１日（土）　講演会「醍醐寺の文化財」
講師：長瀬福男（総本山醍醐寺広報室長）
11月24日（月・祝）　リニューアル記念特別展 「御法に守られし　醍醐寺」終了
12月９日（火）　特別展「天神万華鏡　～常盤山文庫所蔵　天神コレクションより～」始まる
１月10日（土）　講演会「天神万華鏡―学問の神のさまざまな姿」
講師：島尾新（学習院大学教授）
１月12日（土）　女流義太夫演奏会「菅原伝授手習鑑」
出演者：竹本駒之助（浄瑠璃・人間国宝）
鶴沢津賀寿（三味線）
濱口久仁子（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）
１月25日（日）　特別展「天神万華鏡　～常盤山文庫所蔵　天神コレクションより～」終了
２月８日（日）　「2015　松濤美術館公募展」　始まる
サロン展「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」（前期）始まる
２月８日（日）　記念対談「クートラスを語る―描くこと、生きること」
出演者：堀江敏幸（作家）
岸真理子・モリア（遺作管理人）
２月19日（木）　理事会
２月22日（日）　「2015　松濤美術館公募展」終了
サロン展「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」（前期）終了
２月24日（火）　評議員会
２月28日（土）　「第33回渋谷区小中学生絵画展　併催　第33回渋谷区立小・中学校特別支援学級連合展覧会」始まる
サロン展「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」（後期）始まる
３月15日（日）　「第33回渋谷区小中学生絵画展　併催　第33回渋谷区立小・中学校特別支援学級連合展覧会」終了
サロン展「ロベール・クートラス展　夜を包む色彩」（後期）終了

Ⅶ　組織

公益財団法人渋谷区美術振興財団

当館は、渋谷区の委託を受けて、公益財団法人渋谷区美術振興財団が運営している。企画展等に関わる諸事業は、機敏でしかも柔軟な経理活動が伴わなければ効果的に推進することが難しいため、行政の公会計制度から独立した財団の財務会計によって計画的な事業を推進することで区民文化の振興を目指しているのである。財団は区の出資により設立され、独自の組織と所要経費をもち、開館時間、休館日、入館料等の美術館の基本的利用条件の決定を除き、施設の維持管理、展観事業及び文化活動の全般にわたって委託されている。

評議員選定委員会

評議員会

評議員	伊藤 福子
	桜庭 清徳
	島津 順一
	原 秀子
	森下 利江
	山本 文
	和田 香代子

理事会

理事長（代表理事）	植木 福一郎
副理事長	森 富子
専務理事（代表理事）	西岡 康宏
理事	鈴木 英一
	野口 正吉
	児玉 史郎

監事	石田 通野
	岡崎 千治

※平成27年3月31日現在

Ⅷ　利用案内

開館時間

〔特別展〕

午前10時～午後6時

＊金曜日は午後7時まで開館

＊最終入館は閉館30分前まで

〔公募展・渋谷区小中学生絵画展・サロン展〕

午前9時～午後5時

＊最終入館は閉館30分前まで

休館日

毎週月曜日（祝日は除く）

国民の祝日の翌日（土・日曜日は除く）

年末年始（12月29日～1月3日）

展示替期間

入館料

展覧会毎に異なります。

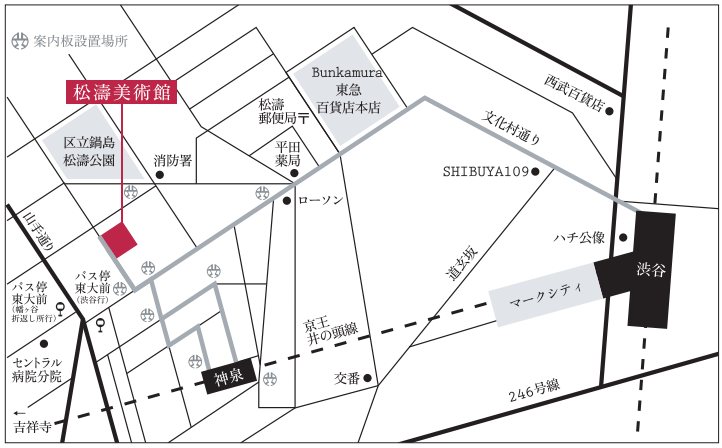
＊団体（10名以上）のお客様が同時に入館される場合、2割引となります。

＊障がい者とその付添の方各1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

＊金曜日に入館される渋谷区民の方は無料です。入館の際に住所のわかるものをご提示ください。

＊土・日曜日、休日、夏休み期間中、小中学生は無料です。

案内図



主要交通機関

京王井の頭線	神泉駅下車　徒歩5分
ハチ公バス	渋谷駅より「丘を越えてルート（上原・富ヶ谷ルート）」にて「松濤美術館入口」下車　徒歩5分
JR山手線・東京メトロ	渋谷駅ハチ公口下車　徒歩15分
	＊駐車場はありません。